

キャピタル・アイ特別企画：財務担当に聞く

福岡市、自主財源比率トップ

福岡市は、2022年1月にグリーンボンド（GB）を初めて起債し、今年1月には自身3回目のGB（10年、80億円、主幹事：野村/三菱UFJMS/大和）を発行する。少子高齢化で日本全体の人口減少が続くなか、同市の人口は毎年増えている。財政部総務資金課課長の吉村文宏氏と同市債係長の永松良市氏、同市債係の宮本郁子氏に話を聞いた。

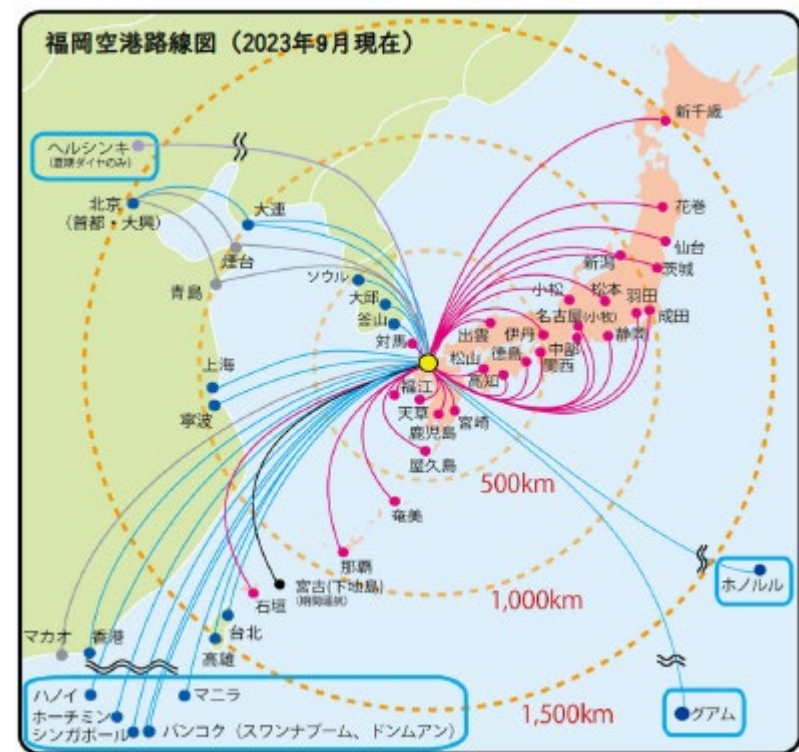


■ 交流の最適地

福岡市の人口は164万人で、政令市では5番目の規模。ほかの都市では人口の減少が見られているが、福岡市は人口が伸びている。最新の人口推計では、2040年まで増える見通しで、都市が成長している。

地理的には、国内の大阪・東京・札幌といった主要都市に加え、東アジアのソウル・上海・北京・台北が半径1500キロ以内に収まっている。韓国・中国と近く、アジア諸国との交流に最適な場所にあるのが福岡の売りだ。

都市部を見ると、博多駅や福岡空港、博多港が、中心繁華街の天神から半径3キロ圏内にあり、コンパクトにまとまっている。これは他都市にはなかなかない特徴で、交通機関が使いやすい。諸外国との利便性も活きている。



経済については、市内総生産は7兆7911億円（2019年）と、大阪市（21兆1656億円）、横浜市（14兆5255億円）、名古屋市（13兆9626億円）に次いで政令市第4位の規模。本店が少ないな

かで、企業誘致に力を入れている。小売業やサービス業などの第3次産業が約9割を占めているのが特徴。「九州・山口1500万人経済圏」の商業・ビジネス・文化の拠点となっている。

■人口増加率トップ

福岡市の強みとしては、人口が毎年1万人程度ずつ増えていることが挙げられる。人口増加率（2020年国勢調査値：2015年対比）は4.79%と政令市でトップ。元気な都市と言われていて、年少（0～14歳）人口（2020年10月：12.7%）もまだ割合的に高く、活力のある人口構成が特徴だ。

アジアからの外国人の入国者数はコロナ禍で急減したが、回復傾向にある。またたくさんの人に来てもらえると期待している。博多港のクルーズ客船寄港回数（2020年：229回）は那覇港（同：260回）に抜かれたが、外国航路船舶乗降人員数（2019年：約161万人）は27年連続で全国1位。コロナで減ったものの、国内のクルーズ再開から海外の分も予約が入っていて、どんどん回復してきている。



福岡空港の年間発着回数は、コロナの影響を受ける前の2019年度は約17.8万回と、滑走路処理容量（16.4万回）を超えていた。滑走路が1本の空港では年間発着回数（2022年度：15.9万回）が1位。この処理能力を上げる必要があり、これは国の事業だが、2500メートルの滑走路の増設事業が進んでおり、2025年3月末に供用開始予定だ。2本になって単純に倍を処理できるわけではないとはいえ、処理能力が増えることで、これまで対応できなかったところが改善され、利用者が増えて活気につながると期待している。



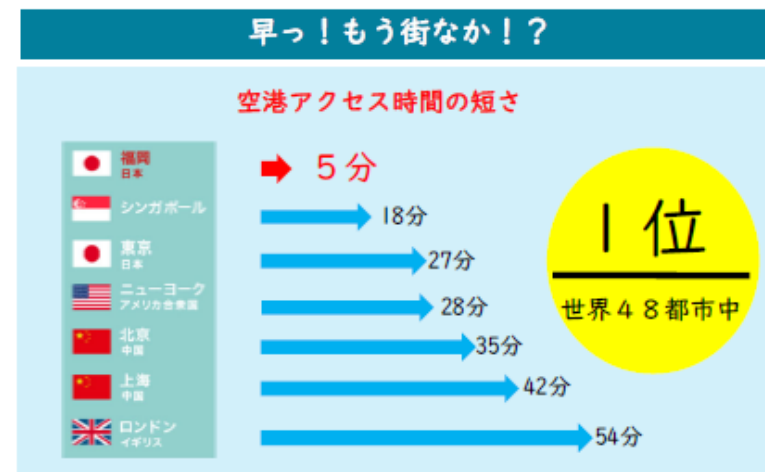
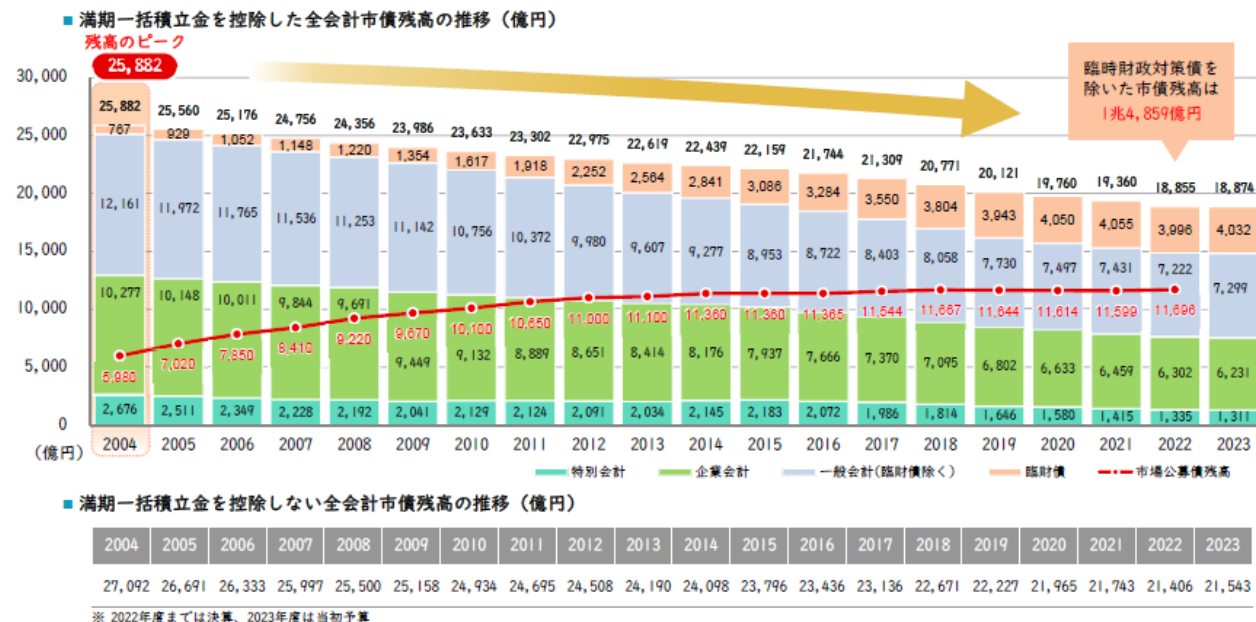
財政部総務資金課長
吉村 文宏 氏

■ 空港から博多まで 5 分

福岡市の魅力については、大東建託の「住みたい街ランキング」（2022 年）で全国 1 位の評価をもらった。片道の通勤・通学の時間が 36 分と、40 分を切っている。3 大都市圏（関東 50 分・近畿 45 分・中京 40 分）と比べてもストレスが少なく済む。福岡市に対する市民からの評価（2022 年度）として、「好き」が 97.4%、「住みやすい」が 96.2%、「住み続けたい」が 92.7%と、いずれも 9 割を超えている。

アクセス面については、福岡空港から博多駅が地下鉄で 5 分と利便性が高い。これは世界主要 48 都市のなかで 1 位だ。

また、福岡市は 2014 年の国家戦略特区の指定以来、「グローバル創業・雇用創出特区」として、スタートアップ法人減税など、様々な支援を行っている。開業率は 2020 年度で 5.3%と、21 大都市（政令市と東京 23 区）で最も高い。国際コンベンションの件数はコロナ禍で全国的に大幅に減ったものの、回復が見込まれる。これまで政令市でトップクラスを維持しており、これを続けていきたい。



※出典「FUKUOKA Facts」
（森記念財団 都市戦略研究所『世界の都市圏合ランキングGlobal Power City Index YEARBOOK 2021』）より

■ ピーク時から 1 兆円減

財政面については、自主財源比率（2021 年度）が 59.4%で政令市トップ。第 3 次産業が市内総生産の約 9 割を占めることで比較的安定した税収構造になっているためだ。市債依存度（同）も 6.4%と政令市で最も低い。市債残高の減少に着実に取り組んでいる。臨時財政対策債を除いた残高は、ピーク時である 2004 年度の 2 兆 5115 億円から 2022 年度は 1 兆 4859 億円と、1 兆円以上減らした。

残高を減らすだけでなく、毎年の市債を使った投資も行い、財政規律を保ちながら、ちゃんと攻めるところは攻めている。今後もこのような財政運営を進めていく。



財政部総務資金課
市債係長 永松 良市 氏

健全化比率も毎年改善している。人件費比率が政令市で最も低いこともあり、義務的経費比率（2021 年度：44.3%）は一番低くなっている。

■ GB 対象に電気自動車追加

福岡市は、脱炭素社会の実現に向けて「2040 年度温室効果ガス排出量ゼロ」のチャレンジを掲げている。その取り組みに必要な資金調達の 1 つとして、2021 年度から GB を活用しており、今年度も発行する。基本的な商品性に大きな違いはない一方、フレームワークを一部改定し、新たな対象のプロジェクト事業として、電気自動車等を追加した。電気自動車等は、職員が使う庁用車を指す。

<充当事業>

事業区分	対象プロジェクト	環境面での便益
グリーンビルディング	市有施設の新築、改修	環境負荷の低減（温室効果ガス排出削減）
再生可能エネルギー	市有施設への再生可能エネルギー設備導入	環境負荷の低減（温室効果ガス排出削減）
省エネルギー	市有施設への省エネ性能の高い機器等の導入	環境負荷の低減（温室効果ガス排出削減）
汚染の防止と管理	下水道施設整備	環境負荷の低減（環境汚染物質削減）
自然資源・土地利用の持続可能な管理/生物多様性保全	公園整備	環境負荷の低減（温室効果ガスの吸収）
クリーンな輸送	地下鉄事業、電気自動車の導入、充電設備の設置	環境負荷の低減（温室効果ガス排出削減）
持続可能な水資源管理	水道事業	安定的な飲用水の供給
気候変動への適応	水害対策事業、道路整備	浸水災害など発生時の浸水被害の軽減

2021 年度に購入単位が 1 億円だったものを、2022 年度に 1000 万円とし、今年度もこれを続ける。地場を中心に中小企業にも購入しやすいようにした。

<福岡市の過去 2 回の GB>

条件決定	年限	発行額	償還日	表面利率	対国債	対カーブ	主幹事
23 年 1 月 27 日	10	90	33/2/7	0.760%	+28bp	+25bp	野村/三菱/大和
22 年 1 月 14 日	10	50	32/1/23	0.214%	+6.5bp	+6bp	野村/みずほ/三菱

※発行額：億円

年限は過去 2 回と同様に 10 年。5 年ゾーンへのニーズがあり、他都市ではこの年限での起債があることは承知しているが、福岡市の GB は、交通局であれば地下鉄事業、水道局であれば水道事業とあり、全てではないにしても各局の希望も踏まえて 10 年を選択している。5 年債を発行しないというわけではなく、これは来年度以降の課題になる。証券会社とも相談しながら検討する。

■グリーンIAMは歓迎

以下は質疑応答。

—横浜市や神戸市が全年限で主幹事方式を採用している。福岡市ではそうする考えはあるのか

債券の発行は、主幹事方式とプレマーケティング方式、共同発行市場公募地方債、入札方式で行っている。リスクをコントロールするとの基本的な考え方をもとに、年限や時期を分散したり、方式をミックスさせたりしている。それぞれのメリットを活かしながら対応していく。このため、主幹事方式 1 つに絞ることは今のところ考えていない。

—地方債セクターにおける現状のグリーンIAMは 2bp だが、これについての考えは

2bp のグリーンIAMについては、いろいろな見方があるが、ESG 債に対する各発行体の取り組みについて、多くの投資家から共感を得ていることで、福岡市債だけでなくほかでも発生していると考えている。調達側にとっては財政負担軽減につながることから、継続してほしい。



財政部総務資金課
市債係 宮本 郁子 氏

—来年度の GB の発行規模については

予算規模を編成中であり、どの部分が対象として拾えるのかという作業をしていて、まだ固まっていない。今年度は 80 億円で、共同 GB の 6 億円を合わせると 86 億円になる。来年度もできるだけ確保したいが、対象の事業がどうなるかを見ながらになる。

—福岡市の良さについて具体的に聞きたい

物価が東京や大阪に比べて安いし、家賃についても高くない。また、天神・博多に加え、西新や大橋などがあるが、街がコンパクトになっていて動きやすい。その一方で、緑が豊かで街と自然が融合している。周辺には海や山もある。あとは食べ物。福岡に来る人は、飲食店の同じ金額でのレベルが高いと言ってくれる。いわゆるコストパフォーマンスが良い。

子育てのしやすさも福岡の魅力。近場に公園が多く、気軽に子どもを遊ばせられる。放課後児童クラブ（学童）は、ほ

かの市では入れないというケースがあるが、福岡市ではそういった話は聞かない。保育所では待機児童数がゼロ（2023年4月：前年比1人減）となっている。

ごみの夜間収集を行っている。政令市では福岡市だけ。夜間のため効率的であり、きれいな街が保てることから住民の満足度（2021年度：97.8%）が高い。

ー成長戦略については

福岡市では、警固断層のリスクがあるなか、国家戦略特区により航空法高さ制限の緩和を獲得し、更新期を迎えたビルを耐震性の高い先進的なビルに建て替えることを誘導することで、さらに都心部の機能を高め、新たな空間や雇用、税収を生み出すプロジェクト「天神ビッグバン」を進めている。天神ビッグバンエリアでは、2026年までに約70棟、さらに2030年代までに約100棟が建て替わる予定。（2021年9月竣工の）天神ビジネスセンターは天神ビッグバンの規制緩和第1号案件だ。

また、ほかの案件も着々と進んできており、博多駅周辺では「博多コネクティッド」という同様の取り組みがある。天神ビッグバン、博多コネクティッドを推進することで、多くの市民や、働く人・訪れる人の安全・安心を確保し、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりに取り組んでいる。



図表等の出典：福岡市 IR 資料（2023年10月）

[2023/12/25 聞き手：キャピタルアイ・ニュース 比後 樹宏]